第３学年　国語科学習活動案

令和７年 11 月 15 日（土）
東京学芸大学附属竹早小学校
３年２組（男子 17 名　女子 16 名）
指導者　髙須　みどり

１　単元名「ことばの世界を旅しようー詩の言葉、友達の言葉、自分の言葉」
学習材　学級文庫に用意した様々な詩（詩集），児童が創作した詩

２　単元の目標

○詩の構成や内容の大体を意識しながら音読できる。（知識及び技能（１）ク）
○様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増やし，詩の中で使い，語彙を豊かにしてい る。（知識及び技能（１）ウ）
○詩を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあること に気付くことができる。（思考力，判断力，表現力Ｃ「読むこと」カ）
○詩を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつ。（思考力，判断力，表現力Ａ「読むこと」ア）
○言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを 伝え合おうとする。（学びに向かう力，人間性等）

３　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①詩の構成や内容の大体を意識しながら音読している。 ②様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，詩の中で使い，語彙を豊かにしている。	①「読むこと」において，詩を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。 ②「読むこと」において，詩を読んで感じたことや想像したことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気が付いている。	学習したことを生かして進んで詩の続きを書いたり，自分で創作したりしながら，感じたことや想像したことを友達と共有しようとしている。

４　単元の実際

（１）単元計画

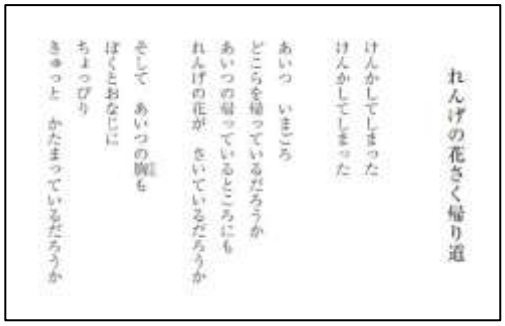
時	○学習活動　・予想されるこどもの反応	◇留意点　◆評価
0	○教師による詩の読み聞かせを聞く。（朝の会やすき間時間）	◇電子書籍にある詩集から，多様な詩を読み聞かせる。 ◆詩の内容の大体を意識しながら聞

		いている。［知・技（1）ク］（発言・観察）
1 2	○Yomokka！で詩集を読み，好きな詩を見つける。 ~~○好きな詩を，友達と紹介し合う。~~ ○好きな詩を視写し，「マイ詩集」にためる。	◇教師が紹介した詩の中から選んでもよいと伝える。 ◆詩を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。［思・判・表Ａア］（観察・マイ詩集）
3	○学級文庫の紙の本（詩集）から、好きな詩を探す。 ○「マイ詩集」に、好きな詩を視写する。	◇~~第 3 時のあと~~，第 2 時のあと「詩のコーナー」（学級文庫）に，紙の本を用意しておき，児童が好きな時に読めるようにする。
4 5	○自分で詩を書く。 『空』，『竹の子祭』，という言葉を使わずに空と竹の子祭を表現する。 ~~○書いた詩を共有し，友達の表現の中から，修辞技法を見つける。~~ ~~○自分と友達の言葉や表現の違い、互いの良さを見つける。~~ ~~○『秋』という言葉を使わずに，秋を表現する。~~ ~~○書いた詩を共有し，友達の表現の中から，修辞技法を見つける。~~ ~~○自分と友達の言葉や表現の違い、互いの良さを見つける。~~ ○『空』『竹の子祭』を表した表現の中から、詩の表現技法を見つける。	◇対句・反復・比喩・体言止め・押韻・省略などの修辞技法を，自分たちの表現の中から見つけさせる。 ◆様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，詩の中で使い，語彙を豊かにしている。 ［知・技（1）ウ］（発言・マイ詩集）
6 7 本 時	○「春になったね」（藤本美智子）を読み，修辞技法を見つける。 ○「春になったね」の続きを書く。 ○「春になったね」の続きの詩をクラスで共有する。 ○元の詩や，自分と友達の表現や感じ方の違いを考え，伝え合う。 ○自分と友達の言葉や表現の違い、互いの良さを見つける。	◆学習したことを生かし進んで詩の続きを書いたり，自分で創作したりしながら，感じたことや想像したことを友達と共有しようとしている。［学びに向かう力］（発言・観察・マイ詩集） ◇一人一人の詩が載っている資料を作り配付しておく。 ◇元の詩から想像を広げた部分や，友達の表現からどのような想像が広がるのかを考えさせる。 ◆詩を読んで感じたことや想像したことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気が付いている。 ［思・判・表］（観察・マイ詩集）
8 9	○詩集から好きな詩を見つけて視写し，「マイ詩集」にためたり，自分で詩を創作することを楽しんだりする。 ○友達と「マイ詩集」を読み合い，互いの詩集の良さや感想を伝え合う。	◆学習したことを生かして進んで詩の続きを書いたり，自分で創作したりしながら，感じたことや想像したことを友達と共有しようとしている。［学びに向かう力］（発言・観察・マイ詩集）
１０	○学習を振り返る。	

（２）活動の経緯

【11 月 6 日（木）・第 1 時】電子書籍読み放題サービス Yomokka！にある詩集『なんじゃらも

んじゃら ともだち』（西沢杏子著／北村麻衣子イラスト、ディスカヴァー・トゥエンティワン 2020 年）から、「れんげの花さく帰り道」「なんじゃらもんじゃらともだち」『あめさん、おひさん』（童謡・金子みすゞ／矢崎節夫・選／森川百合香・絵、フレーベル館 2002 年）から「あめさん、おひさん」「くも」 を読み聞かせした。


れんげの花さく帰り道

けんかしてしまった
けんかしてしまった

あいつ　いまごろ
どこを帰っているだろうか
あいつの帰っているところにも
れんげの花が　さいているだろうか

そして　あいつの胸を
ぼくとおなじに
ちょっぴり
きゅっと　かたまっているだろうか

なんじゃらもんじゃらトモダチ

カ　ぶんぶん
ハチ　ぶーんぶん
トモダチ　ぶんぶん

おこってるトモダチは
なんじゃらもんじゃら

どちらかというと
カのなかま
ハチのなかま

カ　ぶんぶん
ハチ　ぶーんぶん
トモダチ　ぶんぶん

おこってるトモダチは
ことばをハリにかえる
ことばをトゲにかえる

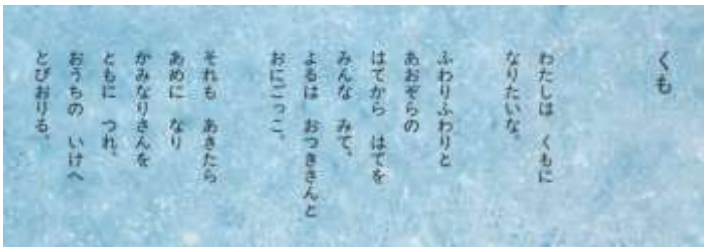
なんじゃらもんじゃらトモダチは
かとりハチよりいたがゆい

おひさん、あめさん

ほこりめ　ついた
しばくさを
あめさん　あらって
くれました。

あらって　ぬれた
しばくさを
おひさん　ほして
くれました。

こうして　わたしが
ねこんで
そらを　みるのに
よいように。


くも

わたしは　くもに
なりたいな。

ふわりふわりと
あおぞらの
はてから　はてを
みんな　みて、
よるは　おつきさんと
おにごっこ。

それも　あきたら
あめに　なり
かみなりさんを
ともに　つれ、
おうちの　いけへ
とびおりも。

「れんげの花さく帰り道」は、友達とけんかしてしまった日の帰り道という、三年生の子どもたちにも身近な風景の中に詩の種があることを教えてくれる。友達とのけんかという出来事から、自分の目に映る帰り道の風景へと視点を広げる橋渡しをしてくれると思い、最初の読み聞かせに選んだ詩である。次に「なんじゃらもんじゃら ともだち」を読んだ。けんかして、仲直りしたいのに、言葉にできない気持ちもある…そんな日常を子どもたちに思い起こさせる詩ではないかと思い選んだ。三年生にとって、「自分の気持ちも詩になるんだ！」という気づきの種を蒔きたいと考えた。

「おひさん、あめさん」は、太陽の光や雨の働きを、まるで人の営みのように描いている。子どもたちはこの詩を通して、自然へのまなざしを深めてくれるだろうと考えた。

「くも」は、雲の存在を通して、自分自身が空に浮かんでいるような感覚を味わえる詩である。雲の動きを想像しながら、子どもたちは「自分も雲になれる」という詩的な体験をし、自分の視点を空へと広げ、ものの見方も広げられるだろうと考えた。子どもたちには「自然をただ見る」のではなく、自然の中に自分を重ねて感じたり、自然の営みに自分なりの意味を見出したりする視点をもってほしい。

この日は Yomokka！で詩集を探して読む時間とした。

【11 月 10 日（月）・第 2 時】この日読み聞かせたのは、Yomokka!から「たいりょう」（金子みすゞ）。視点の転換がある詩を選んだ。読み聞かせのあとは第 1 時と同じく Yomokka!で詩集から好きな詩を探して読む時間とした。Yomokka!に所蔵されている詩集は、1・2 年生向けで検索すると『生きるまほう』（清野倭文子著、2019 年、ディスカヴァー・トゥエンティワン）『おさかな』『ふしぎ』『わたしと小鳥とすずと』『明るいほうへ』『星とたんぽぽ』（金子みすゞ作、2005 年～2006 年、金の星社）『なんじゃらもんじゃらともだち』（前掲）など約 10 冊。

3・4 年生向けの検索では、1・2 年生向けの検索で出てきた金の星社の『金子みすゞ詩集』に加えて、『谷川俊太郎詩集たったいま』（詩・谷川俊太郎、絵・廣瀬弦、2019 年、講談社）『宮沢賢治童話集１～３』（宮沢賢治・作、太田大八・絵、2008 年、講談社）のほかにも金子みすゞの詩集が 5 冊ヒットした。Yomokka!では金子みすゞの詩を好んで読む子どもたちの姿がよく見られる。詩の持つ力ももちろんあるとともに、詩集そのものが少ないため選択肢があまりない点も要因の一つとして考えられる。この第 2 時から、マス目を印刷した専用の用紙に、お気に入りの詩を見つけたら視写して貯めていき、自分のお気に入りだけを集めた「マイ詩集」を作ってみようと投げかけた。詩を読むことに対する子どもたちの反応は、おおむね肯定的である。

【11 月 11 日（火）・第 3 時】この日読み聞かせたのは紙の詩集から「ちょうちょう」（はたなかけいいち）、言葉遊び的な詩を選んだ。この第 3 時も「マイ詩集」にお気に入りの詩を集める活動を行った。活動を始める前には、10 児「次も詩を読む？」、16 児「今日も詩を写す？やったあ」、15 児「今日は詩を書きますか？」19 児「自分でも（詩を）書けるよ」など、詩に対してその子なりの関わり方で前向きに取り組もうとする子どもの様子が見られた。この時間から「Yomokka!にはない詩がたくさんあるから、紙の詩集も読んでみよう」と投げかけた。

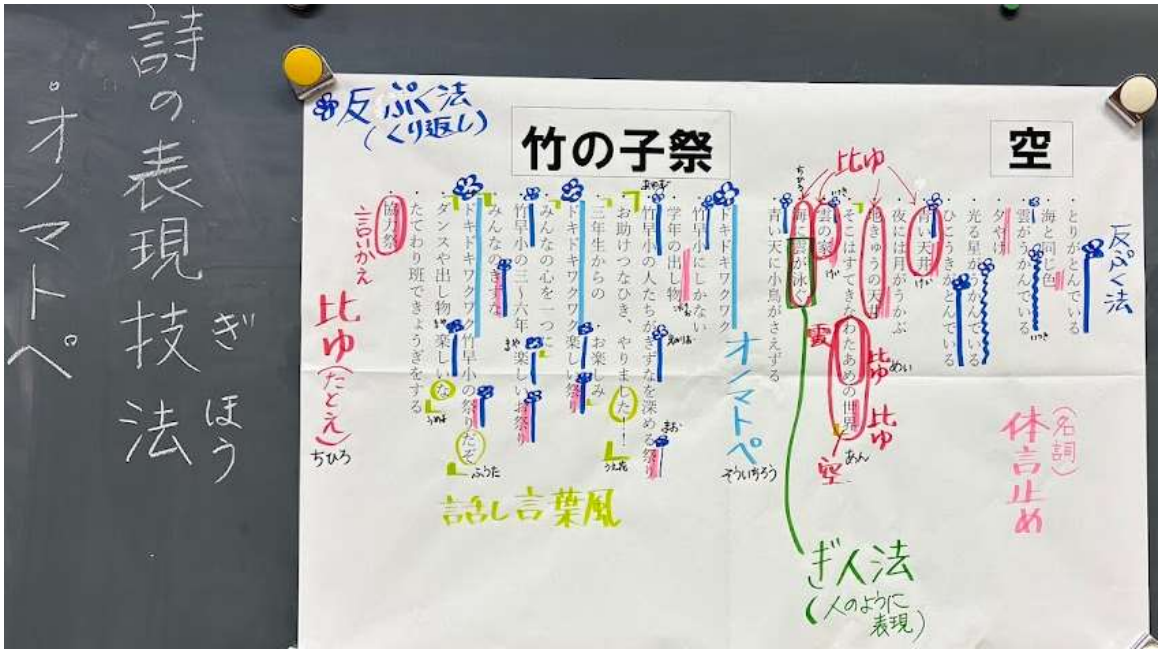
【11 月 12 日（水）・第 4 時】この日は紙の詩集から、「赤ちゃん」（赤岡江里子）、「びょうき」（秋原秀夫）を読み聞かせた。「赤ちゃん」は赤ちゃんの泣き声を「ムギュウ　ギュウ」と独特のオノマトペで表している。自分で言葉を生み出す面白さに気付くきっかけにしてほしいと考えた。「びょうき」は、学校を休んで寝ている男の子が、家の中で聞こえてくる様々な音を「オーケストラ」に例える言葉が面白い。比喩への興味につながるだろうと考えた。

第 4 時は「マイ詩集」の活動は行わず、「空」「竹の子祭」をその言葉を使わずに表現してみる「詩人になってみよう」という活動を行った。「空」は、子どもたちの目に見える身近なものでありながら文字通り手が届かないものである。だからこそ、子どもたちは自分の感覚や気持ちを頼りに、見えないものを見ようとするのではないかと考えた。詩をつくるうえで大切な、想像する力や、自分の視点を言葉にする力を育んでくれることを期待して選定した。「竹の子祭」は、色や形がはっきりとあるわけではないが、子どもたちが 6 月に体験した、心に残る行事である。その記憶には、音やにおい、動き、気持ちなど、さまざまな感覚が詰まっている。言葉にしづらいけれど確かに感じたことを、自分の言葉で表現することは、経験を言葉にする力や自分だけの視点を見つける力につながるだろうと考えた。

子どもたちが考えた言葉の中には、教師が指導する前から、体言止め、繰り返し（反復法）、対句法、比喩、擬人法、オノマトペ、話し言葉風の文体などの表現技法が詰まっている。この時間ではそれらを学習する時間がとれなかったので、次時にクラスで共有することにした。

【11 月 13 日（木）・第 5 時】第 4 時の板書を整理し拡大印刷したものを掲示し、そこに直接、表現技法について書き込むことにした。

まず教師から、詩には表現技法と呼ばれる表現の工夫の仕方があること、第 4 時にみんなで考えた詩にはその表現の工夫がたくさん詰まっていることを伝えて価値づけた。そして低学年で学習した、音や様子を表す言葉も表現技法のひとつであること、それを「オノマトペ」と呼ぶことを教えた。



この掲示の中の言葉からオノマトペ（水色）を探してみようと投げかけると、1 児が「ドキドキワクワク。三つある」と発言した。この発言から、同じ言葉が何度も出てくるのは反復法（青）という技法であると教えると、「とんでいる、もそうだ」（1 児）、「うかんでいる！」（21 児）、「竹早小もたくさん出てくる」（23 児）、「祭りとお祭りも」（6 児）、「楽しいが 2 回（出ている）」（16 児）と発言が続いた。ここで、教師から「表現技法のことをよく知らなくても、表現の工夫を感じる言葉があれば教えてほしい」と投げかけると、5 児が「協力祭は、その前に出てきた、竹の子祭でみんなが心を一つにしてがんばったこととか、絆を深められたことを表している」と発言した。そこで教師から「協力祭という言葉は、竹の子祭を言い換えた言葉でもあるね。『言い換え』と『例え』は違うけど、何かに例えることを比喩と言うよ。空や竹の子祭を何かほかの物に例えている言葉を探してみよう」と伝えた。4 児が「わたあめの世界？わたあめが雲のことを表現していると思う」、12 児「わたあめの世界の世界は、空のことだと思う」、32 児「青い天井…地球の天井も！空は上にあって蓋みたいな、はっきり目に見えるものじゃないけど、そういうことを表して天井と言っているってこと」と続けた。さらに 21 児が「まだある。雲の家も、空の言い換え」と発言した。この「雲の家」への気付きが出たところで子どもたちの発言をいったん止めて、教師から体言止めを紹介するとともに、再度、何の技法か分からなくても表現の工夫を感じるところを見つけたら発表してほしいと伝えた。体言止めの発表が続く中、10 児が「お助け綱引き、やりました！！が、…実際に言っているような。セリフみたいに感じる」

と発言した。10 児に対して、文体の違いに気付いたことを価値付け、他の児童に対して「話し

言葉のような文体になっているところがほかにも無いか探そう」と投げかけると、28 児「祭りだぞ、のところ」、14 児が「ダンスや出し物楽しいな、だ！」と見つけた。最後に教師から、「雲が泳ぐ、のところは、雲が人のように『泳ぐ』と表現しているから擬人法と言うよ」と紹介してこの時間を終えた。

【11 月 14 日（金）・第 6 時】第 5 時を振り返り、詩の表現技法を確認した。「春になったね」（藤本美智子）は、2 連で構成されていて、簡単な言葉で書かれたリズムよく読める詩である。この詩を 2 回読み聞かせ、第 5 時で知った表現技法を見つけられるかを子どもに聞いてみた。読み聞かせが終わってからプリントを配付し、ホワイトボードにプリントの拡大版を掲示した。子どもたちは三十分くらいかけて、反復法、オノマトペ、話し言葉風の文体、比喩、体言止め、擬人法を見つけた。題名でもある「春になったね」という言葉について、15 児が「繰り返し出てくるし、『ね』が話し言葉と言うか、問いかけているような感じ」と発言した。この子が言った「問いかけ」に対し、教師から「質問するという意味の問いかけではなく、誰かに語りかけている感じかな？」と聞くとうなずいたので、掲示には「語りかけ」と記入した。13 児が最後にどうしても言いたいと「なんか、リズムがいい」と発言した。残りの時間は、教師から「この詩の真似をして、自分で詩を書いてみよう」と子どもたちに投げかけ、第 1 連と第 2 連の間に入る詩、または第 2 連のあとに続く詩を書く時間とした。机間指導しながら、13 児の書いた「まぶしいまぶしい夏になったね」、16 児の「あついあついなつになったね」を読み上げてクラスに紹介した。また、「夏じゃなくて冬で書いている人もいるね。春だけじゃなくてもいいよね」と全体に声をかけた。2 児「夏の前に、もう一つ季節がありますよ！」、14 児「梅雨も

あるなあ…」、5 児「私、梅雨で書きました」、23 児「僕、冬も書いたよ」など、思い思いのアレンジを加えながら創作を楽しむ姿が見られた。

5　本時の計画（７時間目／全 10 時間）

①本時のめあて

・友達の詩を読んだり聞いたりして感じたことや想像したことを伝え合い，一人一人のよさや，違いなどがあることに気付く。

②本時の展開

時間	○学習活動　・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◆評価［評価方法］※資料

導入 5分	○学習の流れをつかむ。	◇本時の流れを示す。
展開1 10分	○班で、前時に書いた詩を読み合い、互いに考えや感想を伝え合う。 ・私と同じ冬の詩だけど、言葉がぜんぜん違うね。 ・僕の詩は寒くて嫌だなって書いたけど、君の詩は雪で楽しい気持ちなんだね。 ・この言葉、いいね。 ○他の班の友達が書いた詩を、表現の工夫や自分との違いや相違点などを見つけながら，じっくり読む。	◇【発表者】元の詩から感じたことや想像を広げて選んだ言葉，表現の工夫などについて伝えるように声をかける。 ◇【聞き手】友達の詩の中の、どの言葉や表現を「いいな」と思うかを考えさせる。 ◇これまでの学習をまとめた掲示物を参考にしてもよいと伝える。
展開2 25分	○創作した詩を全体に紹介する。 ①【発表者】表現読みをする。 ②【聞き手】元の詩との違いや良いなと思う言葉、表現の工夫を見つけながら聞く。 ③【聞き手】内容や良いなと思った言葉、表現の工夫について感想や気付いたことを伝える。 ④【発表者】伝えたかったことや表現の工夫など，自分のこだわりについて語る。 ・Ａさんの詩は夏のことを書いていて、○○という言葉から夏らしさが伝わります。 ・Ｂさんが空に□□と語りかけるのが面白いです。 ・Ｃさんの○○という比喩が、冬の寒さをよく表しているなと思いました。 ・Ｄさんの詩は、冬を表現しているけど、明るくて楽しくなる言葉が多いです。 ・私は△△という言葉が気に入っています。 ・空と話したい気持ちを分かってもらえてうれしいです。 ・夏休みが終わってしまう悲しさを対句で表そうと思いました。 ・冬の空を楽しいと感じているように、オノマトペを工夫しました。	◇修辞技法が使われている表現について触れている子どもの発言を価値付け、何という技法か全体で共有する。 ◆詩を読んで感じたことや想像したことを伝え合い，一人一人のよさや感じ方などに違いがあることに気付いている。 **［思・判・表①］** **（発言・観察・マイ詩集）** ◆学習した修辞技法を生かして進んで詩の推敲や，新しく創作しながら，感じたことや想像したことを友達と伝え合っている。 **［主体的に学習に取り組む態度］（発言・観察・マイ詩集）**
まとめ 5分	○友達の詩を聞いた感想を書いて提出する。	

◆資料『マイ詩集』（資料及び活動の経緯の中の児童番号は、座席番号です）

席	選んだ詩・作者	詩の好きな所や選んだ理由
1	「うんこ」谷川俊太郎	なぜ谷川しゅんたろうさんがこのしをかいたのかふしぎだったから。きょうみがわいたからでもある。
2	「しば草」金子みすゞ 「おさかな」金子みすゞ	（マイ詩集の表紙に「金子みすゞコレクション」と書いてある。）ふうつうの道にある草でも、ふつうの人のしてん（じゃまなど）とちがうみかたをして、しば草にも、強くて、じょうぶだよ、とほめているところがかんどうした。 みんな魚をおいしく食べるけど、金子みすゞさんどくとくの、みんなとちがうみかたをしていて、ちょっとさみしい、おこりだい魚のきもちがつたわってきました。とくに「いたずら一つしないのに」（が好き）です。
3	「すずめのかあさん」金子みすゞ	すずめのお母さんの気持ちが分かるからすき。
4	「星とたんぽぽ」金子みすゞ 「日の光」金子みすゞ	星とたんぽぽがよりそっていてたんぽぽんのわたげと星がふわふわしているのがかんじられるから！！ くもとそらとたいようが花などのためにはたらいてくれているのがわかったから。
5	「朝顔のつる」金子みすゞ	あさがおに注目するのではなくあさがおのつるに注目するのがびっくりしました。もっと長くのびてほしいなと思いました。
6	「あめはうるおす」マーガレット・ワイズ・ブラウン	ちゃんとそこのわるいことじゃなくて、そのたいせつなことをかいているからすきです。
7	「ありがとう」谷川俊太郎	
8	「わたしと小鳥とすずと」金子みすゞ	「みんなちがってみんあいい」という言葉が好きだし、ゆったりしているリズムが好きだからです。
9	「かっぱ」谷川俊太郎	リズム感があって、読んでいると楽しいから。

10	「土」金子みすゞ 「わたげ」ぶしかえつこ	土のことが書かれていて、土って色々なものに役立っていることがよく分かり、すごいなと思いました。「名のない草のお宿をするよ」ということばがいいなと思いました。土を大切にしたいなと思いました。 誰の助けもいらないで自分がやりたい事をどんどんやっていく力がよくつたわります。その言葉は「風がなくても」という言葉です。
11	「こころ」萩原朔太郎 「うしのうしろに」谷川俊太郎	心を花にたとえているのがすてきだなと思いました。 ぜんぶに「う」がついていてすごくおもしろかったです。
12	「冬の校庭」	この詩で８という数字をいっぱいつかっているのがどくとくですきです。あとさいごの朝礼だという言葉がかわいくてすきだったからです。
13	「はくしゃくふじん」谷川俊太郎	「なにをすればいいのかかんがえておく」が、なにもしたくないけれど、なにもしないことはできないというむじゅんぽいから（すき）
14	「日の光」金子みすゞ	なんだか、そのものが思っていることを知れる。
15	「冬の校庭」内田麟太郎 「日の光」金子みすゞ	８を雪だるまに見せてせいれつだ。そのあとに朝礼。どこかの学校みたいでおもしろい。 ひとりずつ答える時に感じょうを書いてから理由をかいて工夫されている気がした。
16	「二つの草」 「きゅうしょく」	リズムがたのしくてすき
17	「ともだちだったへそ」 西沢杏子	わたしのおなかが「よいにおいの草原」がおもしろかった。なぜならよいにおいの草原がカブト虫の光る羽　面白いものをすいよせたから。
18	「おひさんあめさん」金子みすゞ 「星とたんぽぽ」金子みすゞ	わたしもケガしたときにおんなじことをしたらいたいのなおるかな？とおもったからです。 きれいな海をおもいうかぶからです。

19	「わたしとことりとすずと」 金子みすゞ	いいところとわるいところをいっている。わるいところもいろいろ。
20	「世界の子どもの合い言葉」 西沢杏子	「ちがう言葉で話したり」というところがすきです。なぜならちがう国でもがんばりま（ママ）というゆうきがでるし、もっといろいろな言葉をはなせるようにねってと言ってくれてるみたいだからです。
21		
22	「雨のあと」金子みすゞ 「かあさんしらぬ」金子みすゞ 「こだまでしょうか」金子みすゞ	「ほろり」という言葉が好き！ かくれちゃうのにそだてるのはなぜだろう？ 「いいえだれでも」というのはどういういみなのか？
23	「なしのしん」金子みすゞ 「にじとひこうき」金子みすゞ	「すてるもの」のくりかえしがすきです。 全てのまとまりの①②③で、ひこうきがでてくる。
24	「ぞうさん」まど・みちお 「ぼんじゅーる　くじら作」 工藤直子 「おならうた」谷川俊太郎	ぞうさんぞうさんのところが⇔（くりかえし）でいいと思った。 お　ぱり　めるしー（ぼくはぱりがすき）のところが、パリがとってもすきなんだな～と思ってよかった。 おならの音がおもしろくて、おならの音なら全部（すき）！！
25	「夏のおわりの麦わらぼうし」 西沢杏子	夏のおわりのぶぶんがすきだから。
26	「夏のおわりの麦わらぼうし」 西沢杏子	おさななじみの男の子が川に落ちたぼうしをひろっていてやさしいと思いました。
27	「おじゃま虫」西沢杏子	ベンチにならんでというばしょがすきだからです。なぜかというと、べんちにならんでときくと、ここちがいいからです。
28	「手をつないだら」西沢杏子	「ゆっくり歩こう」の部分が、こころがあたたまってすきです。

	「緑のきぼう」西沢杏子	「つんつんのびる」ががんばっているようでおうえんしたくなるからです。
29	「野ばらの花」金子みすゞ	花の気もちを考えているところがすきです。たいようのやさしさも表しているステキな詩。
30	「なんじゃらもんじゃらともだち」西沢京子	この詩でおこったともだちがどんなかんじかしれました。だからともだちをおこらせないようにがんばります。
31	「なしのしん」金子みすゞ	
32	「大漁」金子みすゞ 「わたしと小鳥とすずと」 「土と草」金子みすゞ	魚の方も考えているところがすきです。 「みんないい」と全部みとめているところがすごいと思った。 目立っていないものをうたっているのがすきです。
33	「ばった」郡山半次郎	さいごの三文字に「ばった」という言葉が入っているのがおもしろいです。いんをふむようなリズムで読むと楽しくなりました。

◆座席表

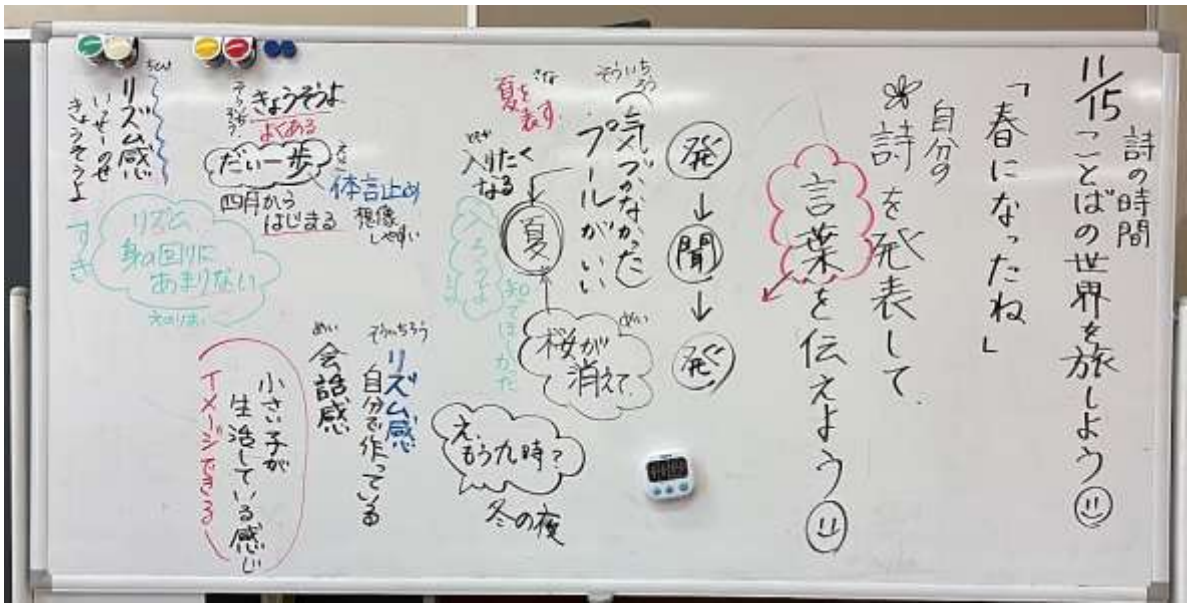
前　黒　板

9	8	7
１８	１７	１６
２７	２６	２５
３３	３２	３１

6	5	4
１５	１４	１３
２４	２３	２２
３０	２９	２８

3	2	1
１２	１１	１０
２１	２０	１９

【本時の様子】

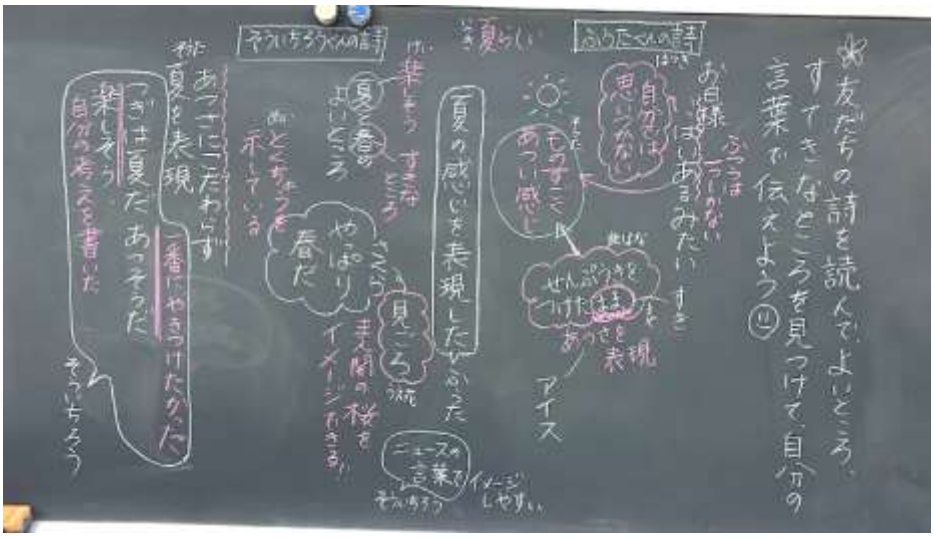


前時までに子どもたちが書いた、「春になったね」（藤本美智子）の詩の続きを創作したものを発表する時間とした。教師からは、「詩の中の自分の言葉と友達の言葉は、言葉に込めた意味が違うかもしれない。だからどんな意味や思いを込めたのか、伝えて聞き合おう」と投げかけた。学習の流れは、まず、発表者が自分の詩を朗読し、次に聞き手が詩の感想や「素敵だな」と思った言葉を発表者に伝え、最後に再び発表者が自分の詩の工夫した所や友達の感想を聞いた感想を話す手順で進行した。一人目の発表者の詩は、「あついあつい／なつになったね／さくらがきえて／こんどはプールに／プールにとびこんで／楽しい楽しい／みんなもプールに入ろうよ」この詩に対して、「僕は夏でプールという言葉が思いつかなかった。プールという言葉がいいと思った」「『さくらがきえて』という言葉が、夏という言葉を使わなくても、夏になったことが分かる」「『入ろうよ』と誘っているから、私もプールに入りたくなる」など、自分とは違う、友達の言葉の選び方への気付きや、呼びかけに心が動かされる共感が語られた。発表者は最後に、桜が消えるともう夏なんだということやプールに入りたくなる気持ちをみんなに知ってほしかった、と語った。

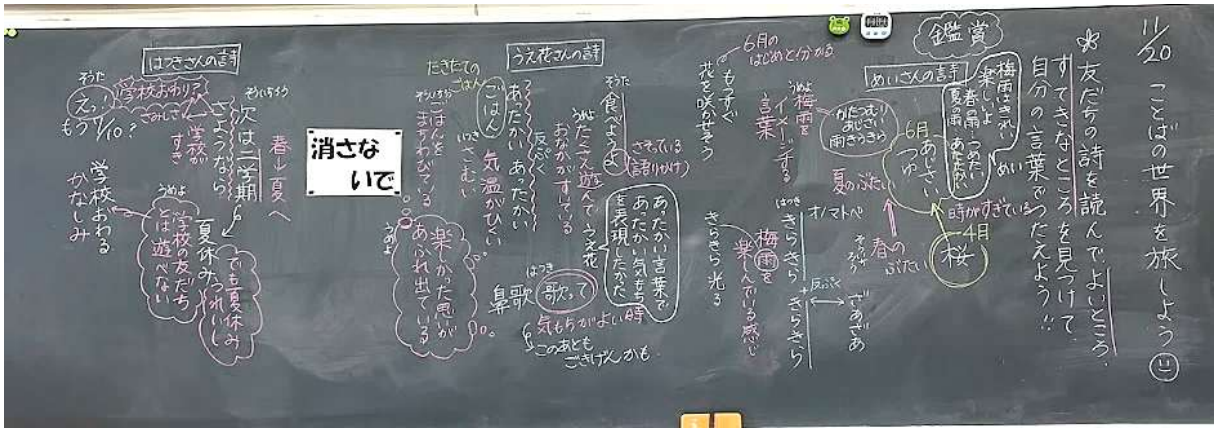
次の発表者の詩は「あかるいあかるい春になったね。／大きい春のかえりみち。／ねえ、あっちまできょうそうよ。／いっせーのーせ。／よーいどんのだい一歩。」この詩に対しては、「『だい一歩』が体言止めになっているから、想像しやすい」「春で、『だい一歩』だから、四月からの始まりを表しているのかなと想像できる」「『いっせーのーせ』『きょうそうよ』が、リズム感がある」「『きょうそうよ』『いっせーのーせ』は、リズムもいいし、身の回りにあまりない言い方で、そこが、詩みたい」と言う感想が出された。言葉の響きやリズムを味わう感受性や、詩の言葉と普段自分たちが話している言葉との違いへの気付き、体言止めへの自分なりの意味付けが語られた。発表者はこれらの感想を聞き、「最後の、ねえ、あっちまできょうそうよ。／いっせーのーせ。／よーいどんのだい一歩、のところのリズムが好き（気に入っている）」と語った。

【事後報告】

11 月 18 日（火）（第 8 時）



11 月 20 日（木）（第 9 時）



第 8 時・第 9 時ともに、自分の詩を聞いてほしい児童のために、発表と感想を伝え合う時間とした。どちらの時間も児童たちは、友達の詩の言葉から、季節の風景をイメージしたり、作者の感情を想像したりしながら、詩の鑑賞を楽しんだ。

11 月 25 日（火）（第 10 時）

友達の詩を鑑賞することも楽しいが、「マイ詩集」作りを楽しみにしている児童も多いため、この日は詩集を読み自分の好きな詩を集める時間とした。

12 月 3 日（水）（第 11 時）

学習のふり返りとまとめとして、①電子書籍と紙の詩集を比べて、違いやそれぞれの良さはどんなところ？②この単元で発見した詩の面白さは？または自分はどんな詩が好きだと思った？と聞いた。①については、電子書籍の詩集は「手でさわれない」「詩や詩集の種類が少ない」「パラパラ読みができない」という難点と、「画面が明るいから、詩も明るいイメージに思える」「同じ本をみんなで読める」「音読機能がある」という良さが出された。音読機能については、「でも自分のイメージと違う読み方になるかもしれない」という意見も多く出た。そして紙の詩集についてはほとんど難点は語られず、「パソコンで見るより、絵の良さや画質がよく分かる」「直接自分の手でさわれるから、本物なんだなと感じる」「パソコンは画面が白いけど、紙はもっと黄色い色で、詩が、違うイメージになる」「パラパラ読みができるから、つまらないとか、面白そうとか、自分の好きな詩を探しやすい」という良さがあるという意見が出た。

②については、「詩の中には、誘ったり話しかけてきたりする言葉がある所が好き」「詩を読むと、自分の中に『これは～～ということを表しているのかな』と、問いが生まれるところが好き」「物語はお話の主人公の気持ちを想像するけど、詩は作者のその時の感情を想像できる。物語よりもわかりやすい所が好き」「詩を読むと、何だか安心したり落ち着いた気持ちになったり共感したり、心がほんわかする。それから、現実では怒らないようなことがおこるのが面白い」「金子みすゞさんの詩は、自然が美しく描かれているところが好き」「みんなの違いを認めてくれているところもいいよ」という意見が出た。